

家族と地域における子育てに関する意識調査のポイント

内閣府が発表した、「家族と地域における子育てに関する意識調査」（平成 26 年 3 月）によると、若い世代で未婚・晩婚が増えている理由は「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（51.9%）が最も多く、今後、子どもを持つ場合の条件は「働きながら子育てができる職場環境であること」（56.4%）が最も多くなっています。地域における子育て支援の意識については、約 9 割が「重要だと思う」と回答しています。

1. 調査の概要

調査の対象は全国 20 歳～79 歳の男女。3,000 人を対象に調査を行い、有効回答は 1,639 人（54.6%）。結婚・家族形成や、家庭における出産や子育て、また、地域での子育て支援環境づくりについての意識を調査し、結果を広く公表することにより、「生命を次代に伝え育てていく家族の大切さや、子育て世代を地域全体で支えていくことが重要であること」の国民意識醸成を目的としています。

2. 若い世代で未婚・晩婚が増えている理由

日本の若い世代に「未婚」「晩婚」が増えている理由の上位 3 項目は、1 位「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（51.9%）、2 位「経済的に余裕がないから」（47.4%）、3 位「結婚の必要性を感じていないから」（41.9%）の順となり、4 位以下の項目は「異性と知り合う（出会う）機会がないから」（33.1%）や「希望の条件を満たす相手に巡り会わないから」（28.6%）など 3 割台以下となっています。

性別にみると、男性では「経済的に余裕がないから」（52.0%）が、女性では「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（55.3%）が最も多くなっており、男女で意識の違いが見られるとされています。

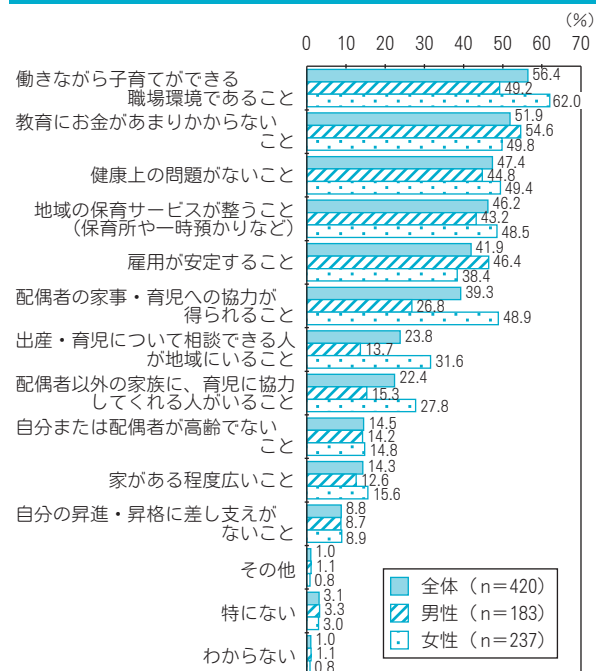
3. 今後、子どもを持つ場合の条件

現在、結婚している 20 歳～49 歳の回答者（420

人）が、今後子どもを持つ場合の条件の上位 3 項目は、1 位「働きながら子育てができる職場環境であること」（56.4%）、2 位「教育にお金がかからないこと」（51.9%）、3 位「健康上の問題がないこと」（47.4%）の順となっています。

性別にみると、男性では「教育にお金がかからないこと」（54.6%）が、女性では「働きながら子育てができる職場環境であること」（62.0%）が最も多くなっています。また、男女で差が大きいのは「配偶者の家事・育児への協力が得られること」（男性 26.8%、女性 48.9%）で、その差は 20 ポイント以上となっています（図 1）。

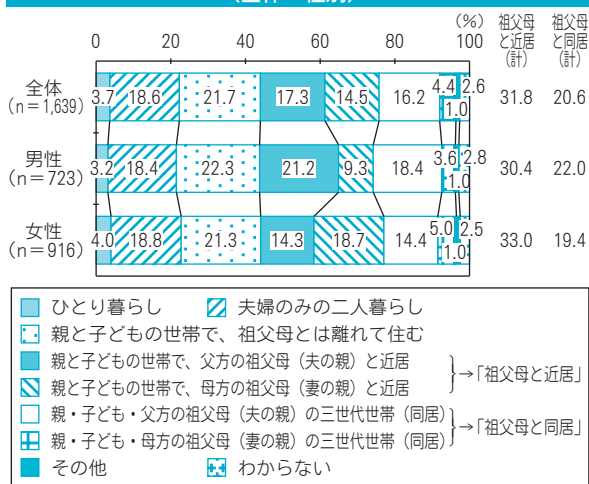
図 1：今後、子どもを持つ場合の条件（複数回答）
（20 歳～49 歳有配偶者、全体・性別）



4. 理想の家族の住まい方と祖父母の手助け

理想の家族の住まい方については、「親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む」(21.7%)が最も多く、次いで「夫婦のみの二人暮らし」(18.6%)となっています。しかし、父方と母方を合計した、「祖父母と近居」は31.8%、「祖父母と同居」は20.6%あり、半数以上が祖父母と近居・同居を理想としています(図2)。

図2：理想の家族の住まい方(単一回答)
(全体・性別)



また、子どもが小学校に入学するまでの間、祖父母が育児や家事の手助けをすることが望ましいかどうかについては、「とてもそう思う」(46.9%)、「ややそう思う」(31.8%)という回答者を合わせると、8割近くが祖父母の手助けを望ましいとしています。

5. 地域における子育て支援の意識

子育てをする人にとっての地域の支えの重要性を聞いたところ、「とても重要だと思う」(57.1%)が最も多く、「やや重要だと思う」(33.8%)と合わせると、9割が地域の支えが「重要だと思う」と回答しています。

男女とも60代以上で「とても重要だと思う」(男性：60代59.6%、70代60.7% 女性：60代63.8%、70代62.6%)と積極的に評価する回答者が他の年代に比べて多い傾向となっています。

6. 公共の場での子ども連れの親への手助け

街中や電車・バスなどの公共の場で、ベビーカーや子ども連れの親が困っている場面を見かけた場合に、手助けをしたり、話しかけたり「すると思う」(92.1%)は多数を占めていました。

実際に行った行動では、全体で見ると「ドアをあけて、押さえておく」(68.5%)が最も多く、次いで「席をゆずる」(65.8%)、「エレベーターで、先をゆずる」(61.0%)の順となっています。

「席をゆずる」と「階段などで荷物やベビーカーを代わり(一緒に持つ)」は、男性40~50代で同世代の女性より、やや多くあげられています(図3)。

図3：子ども連れの親に対して実際に行った行動(複数回答)(全体、性・年代別)

	ドアをあけて、押さえておく	席をゆずる	エレベーターで、先をゆずる	子どもが落としたりおちつかないように注意する	階段などで、荷物やベビーカーを代わり(一緒に持つ)	はげましの笑顔や話しかけ	子どもをあやす	特になし	その他	わからない
全体 (n=1,639)	68.5	65.8	61.0	53.6	34.0	29.5	26.1	5.7	0.2	0.1
男性小計 (n=723)	67.9	68.3	60.2	43.0	33.6	19.6	13.8	6.4	0.4	0.1
20代 (n=64)	65.6	67.2	53.1	34.4	20.3	9.4	6.3	4.7	1.6	-
30代 (n=94)	81.9	62.8	66.0	43.6	29.8	13.8	11.7	4.3	-	-
40代 (n=141)	79.4	79.4	69.5	51.1	41.1	14.2	11.3	2.8	0.7	-
50代 (n=123)	71.5	74.8	60.2	47.2	42.3	14.6	12.2	4.1	-	-
60代 (n=161)	60.2	64.6	57.8	42.2	26.7	29.2	13.0	9.3	-	-
70代 (n=140)	53.6	60.0	52.9	35.7	35.0	27.1	23.6	10.7	0.7	0.7
女性小計 (n=916)	68.9	63.8	61.6	61.9	34.3	37.2	35.8	5.2	-	0.1
20代 (n=70)	81.4	75.7	72.9	64.3	24.3	18.6	10.0	1.4	-	-
30代 (n=130)	75.4	60.8	73.8	76.2	33.1	25.4	26.9	3.1	-	-
40代 (n=141)	76.6	66.7	70.9	75.2	37.6	31.2	35.5	2.1	-	-
50代 (n=169)	77.5	62.1	62.1	63.3	37.9	32.5	29.0	5.3	-	-
60代 (n=232)	59.9	60.3	54.7	53.4	35.8	47.8	44.0	5.6	-	-
70代 (n=174)	56.3	64.9	48.9	49.4	31.0	48.9	48.9	10.3	-	0.6

我が国の合計特殊出生率は、依然として先進国の中でも低い水準にあります。子育て支援の充実には、多くの女性が望んでいることであり、女性の活用を推し進める上でも喫緊に対応すべき課題であると思われます。(奥 桂子)